



2016年5月13日

## 2016年度の鉄軌道事業設備投資計画 車両新造のほかホームドア設置、駅改良工事に総額489億円 —安全で安心できる「いい電車」と快適で便利な「いい街」の実現に向けて—

東京急行電鉄株式会社

- ◇2017年度の導入をめざし、田園都市線の新型車両の製造に着手
- ◇ホームドア、3D式踏切障害物検知装置の整備による鉄道運転事故・輸送障害の未然防止
- ◇地域と連携した駅改良、バリアフリー強化による快適で便利な駅空間づくり
- ◇東急線アプリによる駅混雑状況、所要時分の配信など、情報配信力の向上

当社は、2016年度、鉄軌道事業において、総額489億円の設備投資を行います。輸送障害の未然防止などの安全投資に240億円、より快適で便利な電車や駅の実現に向けた付加価値向上・サービス拡充に249億円投資し、いつでもどこでも安全で安心・快適な移動ができる「いい電車」の実現とお客さまが駅をもっと身近に感じていただける、愛着のある「いい街」の創出をめざします。

### 1. 安全で快適な車内環境の実現

2017年度の導入をめざし、田園都市線の新型車両の製造に着手します。新型車両は、故障につながる予兆を早期に発見するための監視システムの導入など、さらなる安全性向上を図るとともに、全車両にフリースペースを設置するなど、お客さまにさらに安心・快適にご利用いただける車両にします。

また、さらなるセキュリティレベル向上を目的に、車両内防犯カメラの設置を順次進め、2020年までに当社が保有する全車両に設置します。

### 2. 鉄道運転事故・輸送障害の未然防止

ホーム上の安全対策として、東横線・田園都市線・大井町線全64駅のホームドアを2020年までに整備することをめざしていますが、今年度は、東横線自由が丘駅や田園都市線二子玉川駅など12駅で工事に着手する予定です。また、田園都市線では、ホームドア整備において課題となっていた6ドア車両の4ドア車両への置き換えを順次進めます。

また、踏切の安全対策として、3D式踏切障害物検知装置を池上線の6箇所の新設を予定するなど、鉄道運転事故・輸送障害の未然防止を図ります。

そのほか、大規模な地震への備えとして、被害が甚大となる恐れのある高架橋柱については、今年度内に耐震補強工事が完了する予定です。

### 3. 快適で便利な駅空間づくり

渋谷駅では、東横線・田園都市線渋谷駅とJR渋谷駅との主要な乗換え経路となっている出入口14番において、エスカレーターの増設などの改良を実施し、2017年夏に仮設出入口として使用を開始する予定です。そのほかの主要な出入口付近へのエレベーターや上下方向エスカレーターの整備についても、今年度の工事着手を目標に検討を進めます。

戸越銀座駅では、地域との連携による駅空間づくりの一環として、東京都内で生産される多摩産材の木材を使用したりリニューアル工事が今秋竣工を迎えるほか、五反田駅の旅客トイレ新設などの改良工事を進めます。

また、菊名駅や用賀駅、雪が谷大塚駅などでさらなるバリアフリー工事に着手します。

#### 4. 迅速な情報配信と配信情報の拡充

東急線アプリなどによる配信情報を拡充し、運行見合わせなどの輸送障害が発生した際に、目的地までの所要時分などの情報を迅速にお客さまに提供するほか、駅の混雑状況が把握できる対象駅をさらに拡大するなど、情報配信機能の強化を図ります。

これらの計画については、昨年度から開始した「いい街 いい電車 プロジェクト」のホームページやポスター、の中で、適宜、取り組み状況をお知らせしていきます。

2016年度設備投資計画の詳細は別紙のとおりです。

【別紙】

## 2016年度設備投資計画の詳細

### 1. 安全で快適な車内環境の実現

#### (1) 2017年度の導入をめざし、田園都市線の車両新造に着手します

新型車両は、故障につながる予兆を早期に発見し、故障を予防するための監視システムの導入やブレーキシステムの変更によるブレーキ性能の向上など、さらなる安全性向上を図るとともに、ベビーカー・車いすをご利用のお客さまがご乗車しやすいフリースペースを全車両に設けることで、さらに安心・快適な車両にします。

また、サイネージの増設による天気予報など情報サービスの充実、省エネ機器導入による消費電力の削減、低騒音型機器導入による車内外騒音の抑制など、最先端の技術を積極的に取り入れた車両にします。

なお、車両デザインなど詳細については、決まり次第お知らせします。

#### (2) 車両内防犯カメラを順次設置します

昨年度から実施している車両内防犯カメラの設置を順次進め、2020年までに当社が保有する全車両に設置します。これまで、当社線の各駅では駅係員や東急セキュリティ鉄道警備隊による警備・巡回のほか、防犯カメラや非常通報ボタンの設置など、さまざまな取り組みを行っていますが、車両内の防犯対策を進めることで、さらなるセキュリティレベル向上を図ります。



池上線・東急多摩川線1000系に搭載した車両内防犯カメラ

### 2. 鉄道運転事故・輸送障害の未然防止

#### (1) ホームドア整備、3D式踏切障害物検知により、事故や遅れの少ない路線を実現します

抜本的なホーム安全対策として設置を進めているホームドアについては、今年度は、東横線の自由が丘駅、日吉駅、菊名駅(上り)、田園都市線では二子玉川駅、大井町線では中延駅など、12駅で工事に着手する予定です。昨年度は、東横線元住吉駅や田園都市線宮前平駅などの5駅で供用を開始したことで、接触事故や不慮の事故などの輸送障害を合わせた2015年度の累計支障時分が、2014年度から約25%低下し、安定した鉄道運行に大きな効果を発揮しました。

また、田園都市線においては、ホームドア整備における課題となっていた6ドア車両の4ドア車両への置き換えを順次進めていきます。

さらに、踏切内での事故を防止するため、従来の光線式よりも検知精度が高い3D式踏切障害物検知装置を池上7号踏切など池上線の6箇所にも新設する予定です。すでに光線式を設置している箇所についても3D式へ更新することで、鉄道運転事故・輸送障害を図り、事故や遅れの少ない路線を実現します。

#### (2) 耐震補強工事と減災対策を推進します

綱島高架橋の耐震補強工事の竣工を予定しています。これにより、大規模地震で、被害が甚大となる恐れのある高架橋柱の補強工事が完了します。今後も、盛土や擁壁などの土木構造物を含め、減災対策を推進してまいります。また、引き続き、施設の長寿命化工事や更新も行い、鉄道施設の総合的な健

全性向上に取り組めます。



学芸大学駅ホームドア



高架下耐震補強工事

### 3. 快適で便利な駅空間づくり

#### (1) エスカレーター・エレベーター増設でさらなるシームレス化を進めます

渋谷駅では、東横線・田園都市線渋谷駅とJR渋谷駅との主要な乗換え経路となっている出入口14番において、エスカレーターの増設などの改良を実施し、2017年夏に仮設出入口として使用開始する予定です。今後も、主要な出入口へのエレベーターやエスカレーターの増設などハード面の充実のほか、バリアフリーに対応した要員の増強などソフト面のサービス向上を図り、工事期間中においてもさらなる利便性向上策に取り組めます。

用賀駅や宮前平駅でエスカレーター設置工事に着手するほか、菊名駅や雪が谷大塚駅では、複数のバリアフリー経路を確保するため、エレベーター設置工事にも着手するなどお客さまが移動しやすい環境づくりを進めます。

当社線の各駅では、段差の解消などすべての駅でバリアフリー経路の確保を完了していますが、さらなるシームレス化を推進します。

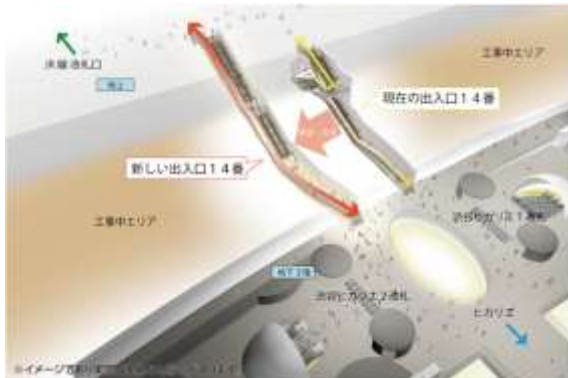
#### (2) 駅の利用特性に合わせた駅設備の改良を行い、利便性向上をめざします。

地域と連携した快適な駅空間づくりの推進として、戸越銀座駅では、東京都内で生産される多摩産材の木材を使用し、地元住民の声などをデザインに取り入れてリニューアル工事を進めていますが、本年秋ごろに完成を予定しています。今後も、地元商店街や地域にお住まいの方々とさまざまな魅力づくりに取り組み、さらなる沿線の活性化に努めます。

また、五反田駅で旅客トイレの新設などの駅改良工事を進め、利便性の高い駅空間づくりを推進します。

#### (3) 東横線祐天寺駅の通過線供用開始により、東横線の速達性が向上します。

2017年3月に東横線祐天寺駅の通過線を供用開始します。これにより、東横線の所要時間が短縮して速達性が向上し、より利便性の高い路線をめざします。



渋谷駅14番出入口上下方向エスカレーター



戸越銀座新駅舎イメージ

#### 4. 迅速な情報配信と配信情報の拡充

(1) 東急線アプリによる迅速な情報配信を強化します。

スマートフォン向けの東急線アプリや運行情報メールなどのツールをさらに有効活用し、運行見合わせや大幅な遅延が発生した場合に、すでに行っている迂回ルートのご案内に加え、目的地までの所要時分を迅速にお客さまに提供するほか、駅の混雑状況が把握できる対象駅の拡大を検討するなど、情報配信機能の強化を図ります。

(2) 情報配信環境の整備と、携帯端末によるわかりやすいご案内サービスを提供します。

駅において、さまざまな場所で情報を入手していただけるよう既設の「お知らせモニター」によるご案内に加え、駅構内サイネージのさらなる設置など、総合的な情報配信環境を整備します。さらに、駅の改札窓口等ではこれまでスマートフォンを一部導入していましたが、今後iPadやiPhoneを拡大導入することで、訪日外国人のお客さまとのコミュニケーションだけでなく、さまざまなシーンに応じたわかりやすいご案内サービスを提供します。

※iPad、iPhoneはApple Inc. の商標です。



東急線アプリ(左:TOP画面、右:駅視-vision-)



係員用携帯端末

以 上